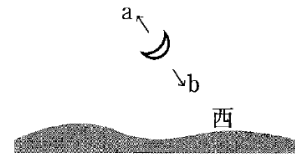
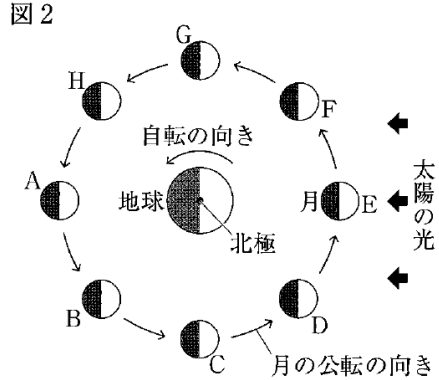


- (1) 図1は、ある年の9月5日の夕方に観察した月の様子をスケッチしたものである。また、図2は、地球と月の位置関係および太陽の光の向きを模式的に表したものである。これについて次の各問いに答えなさい。

図1



- ① 図1のときの月は図2のどの位置にあるか。最も適切なものを図2のA～Hから1つ選び、記号で答えなさい。



- ② 2日後の9月7日の同じ時刻に同じ場所で月を観察した。このときの月の位置と形は、9月5日のときと比べて、それぞれどのように変化したか。次から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 月の位置は図1のaの方向に移動し、さらに細い月に変化した。

イ 月の位置は図1のaの方向に移動し、かがやいて見える部分が増えた。

ウ 月の位置は図1のbの方向に移動し、さらに細い月に変化した。

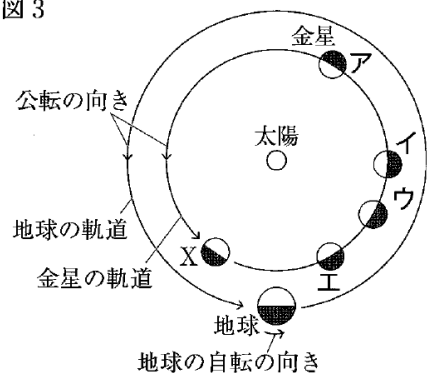
エ 月の位置は図1のbの方向に移動し、かがやいて見える部分が増えた。

- ③ 9月5日から10日後に月が南中するのは何時ごろか。最も近いものを次から1つ選び、記号

ア 午前6時 イ 正午 ウ 午後6時 エ 午前0時

- (2) 図3は、太陽、金星、地球の位置関係を模式的に表したものである。これについて次の各問いに答えなさい。

図3



- ① 図で、地球から金星を見たときに、形が最も欠けて見えるのは金星がどこにあるときか。図のA～Dから1つ選び、記号で答えなさい。

- ② 図のXの位置に金星があるとき、金星は、いつごろ、どの方位の空に見えるか。その組み合わせとして最も適切なものを次から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 明け方、西の空 イ 明け方、東の空 ウ 夕方、西の空 エ 夕方、東の空

- (1)① 図2のAは満月、Cは下弦の月、Eは新月、Fは三日月(9月5日の月)、Gは上弦の月の位置である。

- ② 地球の北極側から見て、月が反時計回りに公転しているため、月を毎日同じ時刻に観察すると、月の見える位置は西から東へ移動しているように見える。

- ③ 9月5日から10日後の月の位置はAの付近と考えられる。

- (2)① 金星の形が最も欠けて見えるのは、地球に最も近いCにあるときである。

- ② 金星が太陽より東(図3の左側)にあるとき、金星は夕方、西の空に見える。

| | | |
|-----|---|---|
| (1) | ① | F |
| | ② | イ |
| | ③ | エ |
| (2) | ① | エ |
| | ② | ウ |